

2026年7月1日



SakuLab-Tsukubaへの入居および研究開発拠点開設のお知らせ

肝不全領域におけるアンメットメディカルニーズの解消を目指し、独自の他家 iPS 細胞由来肝芽細胞を用いた細胞治療により、致死的な肝疾患に対する革新的な治療法の開発を進める株式会社センノ・セラピューティクス（本社：東京都、代表取締役 CEO：森智恵子、以下「当社」）はこのたび、アステラス製薬が運営するライフサイエンス分野のインキュベーション施設「SakuLab-Tsukuba」に入居し、研究開発拠点を開設いたしました。

SakuLab-Tsukuba は、充実した研究設備や共用機器を備え、ライフサイエンス・バイオテクノロジー分野のスタートアップや研究機関が集う研究開発拠点です。当社は本施設を活用し、研究開発体制を一層強化するとともに、リードパイプラインである「SEN-001」およびさらなる革新的な再生医療等製品の創出に向けた研究を加速してまいります。

また、SakuLab-Tsukuba に集う企業・研究機関・支援機関との交流や連携を通じて、新たな技術や知見を積極的に取り入れ、オープンイノベーションを推進してまいります。

当社は今後も、再生医療技術の社会実装を通じて、これまで十分な治療手段がなかった患者さんに新たな選択肢を届けてまいります。

所在地: 茨城県つくば市御幸が丘 27 番地 アステラス製薬つくば研究所

他家 iPS 細胞由来肝芽細胞（Hepatoblast）または SEN-001 とは
SEN-001 は、他家 iPS 細胞から分化誘導した肝芽細胞を用いた細胞治療です。肝芽細胞は肝細胞へ分化する能力を持つ前駆細胞であり、体内投与後に肝臓へ生着・増殖しながら肝機能の補完・回復に寄与することが期待されています。

また、均質性を保ったまま大規模培養および凍結保存が可能であり、安定供給可能なオフ・

ザ・シェルフ型治療としての展開を目指しています。

慢性肝不全急性増悪（**ACLF**）について

肝硬変などの慢性肝疾患患者に、感染症や飲酒などを契機として急激に肝機能が低下し、多臓器不全に至る重篤な病態です。発症後 28 日以内の死亡率は 30~40%に達するとも報告されており、短期間で高い死亡リスクを伴います。

世界的にも患者数は増加傾向にある一方で、現時点での根本的な治療法は肝移植に限られており、ドナー不足などの課題から、代替治療の開発が強く求められています。

センノ・セラピューティクスについて (<https://sennotx.com>)

Senno Therapeutics は、ヒト iPS 細胞由来肝前駆細胞および肝臓オルガノイドの技術を用いて、致死的な肝不全に対する新たな治療法の開発を行うバイオベンチャーです。東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター谷口英樹教授（再生医学分野）らのヒト iPS 細胞由来肝前駆細胞（肝芽細胞）に関する研究成果をもとに、2024 年に設立されました。臓器移植を待ちながら亡くなってしまう肝不全患者さんを救う、革新的な細胞治療を確立することをめざしています。

会社名：株式会社センノ・セラピューティクス

所在地：東京都

代表者：代表取締役 CEO 森智恵子

設立：2024 年

URL：<https://sennotx.com/>
